



府食第198号
令和元年7月18日

食品安全委員会委員長 佐藤 洋 殿

研究・調査企画会議

事前・中間評価部会 座長 山本 茂貴

令和元年度食品健康影響評価技術研究の3次公募における採択課題
(案) について

このことについて、令和元年7月16日に開催した令和元年度研究・調査企画
会議事前・中間評価部会（第3回）における審議の結果、別添のとおり取りまと
めましたので、報告いたします。

(別添)

令和元年度

食品健康影響評価技術研究の3次公募における
採択課題（案）について

令和元年7月

食品安全委員会 研究・調査企画会議
事前・中間評価部会

令和元年度食品健康影響評価技術研究の3次公募における採択課題

受付番号 主任研究者名 (所属機関名)	研究課題名 (研究期間)	研究概要	評点 (20点満点)	評価所見
1 砂川 富正 (国立感染症研究所)	ノロウイルスによる健康被害実態及び食品寄与率の推計に関する研究(令和元～2年度)	本研究においては、主にカキ生産自治体を対象地域として、感染者、下水、カキ等食品から検出されるノロウイルス(NV)に対して、ダイレクトシーケンスによる遺伝子解析を行い、さらに次世代シーケンスによる詳細な分析を実施し、食品から分離されるNVの起源について整理する。次にNV感染症において食品が寄与する割合の検討として、特に集団感染事例における精査を対象自治体にて行い、集団発生数、入院患者数、死亡者数における感染源・感染経路の情報と共に把握し、食品の寄与分析に反映させる。学校給食施設等の大規模調理施設における不顕性感染の割合を増加させる可能性のある要因を推定する。	15.8	<p>(総合コメント) 公募内容に沿った研究であり、成果が期待される。</p> <p>(その他) ・不顕性感染を含めた患者数の推計が期待される。 ・研究計画・方法に記載されている「前向き研究」や「症例対照研究」の用語について、より適切な記載を検討する必要がある。</p>
2 大西 貴弘 (国立医薬品食品衛生研究所)	アニサキス汚染実態調査およびリスク低減策の評価に関する研究(令和元～2年度)	アニサキス食中毒のリスク評価を行うための知見を収集するために本研究を行う。本研究では自然界におけるアニサキス汚染状況を把握するために魚個体レベルでの汚染調査を行うとともに、水産食品を喫食する際のアニサキス暴露リスクを推計するために、すぐに喫食可能な水産食品(刺身、柵等)レベルでの汚染実態調査も合わせて行う。さらに大型施設で行われているアニサキス検出、除去法の効果を科学的に検証する。以上の結果を総合しアニサキス食中毒リスクを検討する。	15.6	<p>(総合コメント) 公募内容に沿った研究であり、迅速検査法が確立し、実態調査が完了することを期待する。</p> <p>(その他) ・リスク評価に向けた科学的知見の収集において実態調査は重要である。</p>
4 西浦 博 (北海道大学)	二値反応の用量反応データを対象としたベンチマークドーズ計算ソフトウェアの開発研究(令和元年度)	二値反応の用量反応関係データに対するベンチマークドーズ(BMD)法の適用において、既存のソフトウェアでは、信頼区間やモデル選択、結果の比較提示などの点で開発者に依存して大きく異なる傾向が認めなかった。また、平均化を少数の適合度の良いモデルで実施すべきことを研究代表者が見出したが、これは既存の海外発のソフトウェアでは実装されていない。本研究の目的は、日本独自の二値データに対するBMD計算ソフトウェアを実装し、行政機関における評価をはじめとして、同手法の実施がより身近になるようグラフィカルユーザインターフェース(GUI)を備えた日本語版ソフトの開発研究を実施することである。	15.9	<p>(総合コメント) 公募内容に沿った研究であり、研究期間内でのソフトウェアの完成を期待したい。</p> <p>(その他) ・作成するソフトウェアを論文での公表やホームページ上での公開を行うことは好ましい。 ・毒性評価の危害要因判定(Hazard characterization)に資することを期待する。 ・将来的には、二値反応だけでなく連続量・疫学データへの適応拡大をするとともに、国際的な展開に発展させることを期待する。</p>